

第 34 回電気通信普及財団賞 表彰者コメント ～テレコム社会科学学生賞～

< 順不同 >

※当論文賞受賞時の所属を記載しております。

宇田川 敦史 氏 (東京大学 大学院学際情報学府 博士後期課程1年)

テレコム社会科学学生賞 入賞

「ランキングのメディア論—検索エンジン・ランキングの歴史社会的構成—」



この度は、「第 34 回電気通信普及財団賞テレコム社会科学学生賞」にご選定いただき、誠に光栄に存じます。本論文の執筆にあたっては、東京大学の水越伸教授をはじめ多くの方々のご指導・ご助力を賜りましたこと、改めて深く感謝申し上げます。また、審査に携わられた先生方ならびに貴財団に厚く御礼申し上げます。

本論文は、社会に遍在している「ランキング」というフレームを「メディア」としてとらえ、中でも現代のメディア環境において重要な役割を果たす検索エンジン・ランキングについて、その歴史社会的な構成過程を、技術と社会の相互構成関係に着目し、分析したものです。その結果、検索エンジン・ランキングは、アルゴリズムがブラックボックス化している一方で、それがランキングというメディアであるということ自体が透明化しつつあることが明らかになりました。これは、複雑化するデジタル・メディアのコミュニケーションの基底的な構造を読み解く、新たなメディア・リテラシーの必要性を示すものでもあります。

今回の受賞を励みに、この知見をより実践的な活動へと昇華させ、理論と実践を架橋できる研究を目指して、さらに精進してまいる所存です。この度は、誠にありがとうございました。

安藤 寛之 氏

(トリプル・ダブリュー・ジャパン株式会社 ソフトウェアマネージャ)

北陸先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 先端科学技術専攻 博士後期課程1年)

テレコム社会科学学生賞 佳作

「雇用型テレワーク組織におけるリーダーシップの特徴と分析」

この度は、栄誉ある「第 34 回電気通信普及財団賞テレコム社会科学学生賞 佳作」を頂き、まことに有難うございます。このような名誉ある賞を受賞し、大変光栄に思います。選出して下さった関係者の皆様方に深く御礼を申し上げます。

ICT の進歩によってテレワークは広がりを見せておりますが、他方で多くの課題も指摘されております。特に ICT の利用によってこれまでの組織運営とは大きく異なる理論・方法が求められると考えております。その中、は組織リーダーシップに着目いたしました。組織としてこれまでと同様の成果が求められることを鑑みますと、フォロワーの視点による分析や、ICT によるテレワーク前提の組織構造などの研究も必要であると考えております。このような、働く人々や組織の変化を対象として、引き続き研究を進めていく所存であります。

この度の受賞を励みとし、より一層精進していき社会に貢献していく所存であります。
末筆ながら、貴財団の発展とご繁栄を祈念いたします